

医療介護経営研究センター

Research Center for Medical and Long-Term Care Management



「医療経営」「介護経営」に関する研究・実践を通じ 医療・介護分野の経営課題の解決を支援する

超少子高齢社会にあって、医療機関や介護事業所は質の高い医療と介護を提供するとともに、自律的に存続していくことが求められています。人材不足や経営力量の不足など様々な課題があります。同時に医療・介護費用の増大は社会保障制度を持続していく上で深刻な課題となっています。

こうした医療機関や介護事業所の経営課題と社会課題の解決に寄与することを目的として、2019年、医療介護経営研究センターが発足しました。それに先立って2009年に設立された医療経営研究センターで、10年にわたって医療と介護における経営について研究と実践を積み重ねてきました。それを継承・発展させ、新たに誕生したのが本センターです。

本センターの特長は、経営学、生命科学、薬学、スポーツ健康科学など多様な分野の研究者が連携し、医療経営と介護経営の両軸で研究するところです。学術研究に留まらず、産官学連携のもと、医療と介護の経営課題および社会課題解決型の研究を推進しています。

医療分野において着目しているのが、医療資源が十分ではない医療過疎地域を巡る問題です。人工知能やロボット、ICTなど医療への活用が進む最新テクノロジーに生かし、遠隔地クリニックへの医療面、および経営面をサポートするネットワークを構築する研究を推進し、困難に直面する地域のクリニックの経営と存続に貢献したいと考えています。

介護分野においては、人材不足が深刻さを増す中で、IoTの活用や介護ロボットが期待されています。本センターでは、介護施設の業務を支援するAIを活用した業務支援システムの活用を、企業および介護事業所と連携し、社会実装を視野に入れて実証研究を進めています。また1990年代以降に、全国に開設された多くの介護施設が今後、建替えやリニューアルの時期を迎えています。それにあたって利用者にとっても、働く職員にとっても適切な介護施設とはどのようなものか研究し、「未来の老人保健施設モデル」を提示することを目指しています。

2025年を目標に地域包括ケアシステムの整備が進められる今、どのように地域共生社会を構築していくかが重要な社会課題となっています。医療と介護の両軸で研究を進める本センターの強みを生かし、地域包括ケアシステムの構築に資する医療機関、介護事業所の事業活動と経営について研究し、地域における医療・介護の充実に貢献していきます。



■ シンポジウムを開催

2019年9月8日、「科学的介護による生産性向上と人材マネジメント」をテーマとして、一般社団法人社会保障人材研究所との共催シンポジウムを開催しました。介護現場におけるAIやICTの活用などについて企業も交えて意見を交わしました。

■ AIを活用した業務支援システム開発

公益社団法人大阪介護老人保健施設協会様と包括協定を結び、介護者や介護現場の視点に立ったAIを活用した業務支援システムの開発につながる研究を推進しています。

■ 地域包括ケアシステム構築における医療介護連携プロジェクト

医療と介護の連携課題を軸としながら、地域包括ケアシステムの構築に役立つ医療機関、介護事業所の事業活動や経営とはどのようなものか、自治体を軸とした地域経営の観点からの研究を行っています。



主な研究テーマ

- 遠隔地クリニックへの医療面及び経営面の支援ネットワーク構築研究
- 病院経営研究
- 未来の老健モデル研究
- 科学的介護研究



センター長：肥塚 浩（経営管理研究科 教授）

主な研究拠点：大阪いばらきキャンパス

お問い合わせ：立命館大学 研究部 OICリサーチオフィス TEL: 072-665-2570 FAX: 072-665-2579 ✉: oicr@st.ritsumei.ac.jp

<http://www.ritsumei.ac.jp/research/mltcm/>